

心の栄養剤No114 【リンゴが教えてくれたこと】

私が無肥料・無農薬のリンゴ栽培を思い立ったのは、女房が農薬にとっても弱い体質だったからです。

畑に農薬を撒くたびに、女房の体に湿疹が出て、何日も寝込むので、なんとかできないかと考えたのです。

それまでの私は、農薬をたっぷり使っていました。ですから、農薬のありがたさは、誰よりも分かっています。「農薬は悪い」と決めつけるつもりはありません。農薬は、農家を重労働から解放し、安定した収穫をもたらしてくれたのですから。

しかし、何十年もの間、農薬を使い続けてきた結果、今、自然環境に大きな変化が出始め、人間への影響が心配されています。ですから「農薬は悪いものだ」「いや、農薬は必要だ」と対立するのではなく、今出ている結果を受けて、少しずつ減らす方向へ変えていけばいいのではないかと思います。

リンゴは、100年以上「農薬と肥料を使わなければ絶対にできない」と言われてきた作物です。しかし、「常識にも間違いはあるだろう」と私は思いました。ですから、徹底的に畑を観察し、ありとあらゆる実験を繰り返しました。

本来、土にはバクテリアや微生物がたくさん生息していて、栄養分を生み出しています。

ところが、肥料を与えられると、微生物たちはもう働かなくていいと勘違いして、休んでしまうのです。ですから、肥料を与えると土が痩せてしまうので、さらに肥料が必要になるのです。

私の畑の土は、30年以上肥料を与えていません。しかし、窒素分は、通常の畑の何倍もあります。

肥料を与えなければ、微生物やバクテリアが本来の力を発揮するので、土が肥えてくるのです。

無肥料・無農薬栽培に挑戦し始めた当初、畑の土は、「うちの主人は肥料を一切与えてくれない。一体何を考えてるんだ!」と思ったでしょう。

それで、バクテリアや微生物たちが会議を開いて、「栄養が足りない。みんなでまた働こう」ということになったのではないのでしょうか（笑）

私は長い間、「土の上」しか見ていませんでした。しかし、大切なのは、「土の中」だったのです。

木は根から土の栄養分を吸い上げます。土が豊かなら、木が健康になるのは当然のことです。

「目に見えないこと」こそ、本当は大事だったということです。
農薬を使わなければ、リンゴの木は自分の力で病気を治します。ある時、私はリンゴの葉に虫が食べたような穴が開いているのを見つけました。普通、その穴を見たら、誰もが「虫食いの穴だ」と思うでしょう。

しかし観察した結果、事実は違うことが分かったのです。その穴は、病気になった部分をリンゴが自ら枯らした結果、開いた穴だったのです。無農薬栽培ですから、時には病気が出る事もあります。そんな時、リンゴは自分でその部分を枯らすのです。そうすることで病気に打ち勝とうとしていたのです。

枯れて穴が開いた面積分だけ、葉っぱの他の部分が大きくなって、全体の葉の量を調整することも分かりました。まるで、リンゴにコンピューターが入っているのではないかと思うほどの精緻さです。このことは、弘前大学農学部の調査によっても証明されています。

何一つ自慢できるところのない私ですが、リンゴはたくさんのことを教えてくれました。少しでもリンゴから学んだことをお伝えして、社会にお役に立って一生を送ればなあと、そんなふうに考えております。

木村興農社代表 木村 秋則 氏講演より

木村秋則さんの「奇跡のリンゴ」は、本も映画も見させて頂き、感動し感銘を受けたのですが、その中の・・・

**「リンゴの木は、リンゴの木だけで生きているわけではない。
周りの自然の中で生かされている生き物なわけだ。
人間もそうなんだよ。人間は、そのことを忘れてしまって、
自分独りで生きていると思っている」**

という言葉が、気づきのすべてだと感じました。植物も動物も人間も皆、自然の中で生かされている。健康に携わる仕事をさせて頂いているなかにおいても、一番大切な事だけど皆、忘れていた事のような気がします。

本年こそ「**生かされている**」と感謝の気持ちを常にしっかり持って、一日一日を大切に元気に過ごす一年にしよう!!

PS

年末、皆様に食べて頂いたクロシウ(バイオリンク)栽培のリンゴも、クロシウ(バイオリンク)を使う事によって、リンゴが元気になって病気をしにくくなる
よって農薬をあまり使わなくてよくなりました、というリンゴなんです!!

人間もリンゴと一緒にクロシウ(バイオリンク)で元気に病気しにくくなる
という事を皆様に伝えたくてお配りしたリンゴなんです!!

※夏のキャンペーンでは、まだ未定ですがクロシウ梅干かクロシウ鮎を用意
しようと考えておりますので、ご期待下さい!!

